

建設大臣賞

都市高速鉄道阪急 京都線(高槻市駅周辺) 連続立体交差事業 (高槻市)

■表彰対象者：大阪府土木部

表彰の理由

交通の要衝となっている中心市街地の踏切が、幾多の困難を克服して除却され、併せて関連街路の整備により、周辺街路の交通渋滞が解消され、また、高架下利用の工夫、駅舎における障害者や高齢者対策など、府が目指す福祉のまちづくりに大いに貢献しているとして評価された。



全景

事業のあらまし

高槻市は、人口約36万人を擁する大阪市のベッドタウンである。阪急京都線は、大阪市と京都市を結ぶ大量輸送機関として高槻市域の発展に大きく寄与してきたが、一方で踏切遮断による交通渋滞や市街地分断の要因となり、都市機能の低下を招いていた。鉄道の高架化事業である連続立体交差事業は、こうした問題の解決に有効な手法として、高槻市駅を中心とする2.8kmの区間で行われることとなり、15年の歳月を経て平成6年3月に完了した。



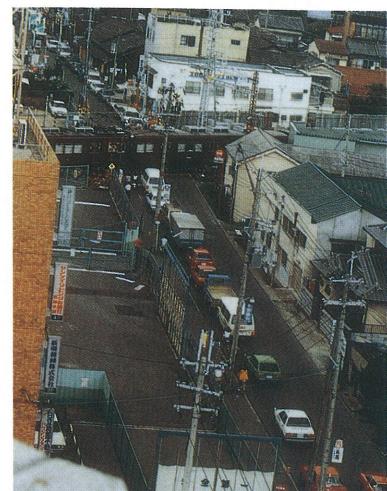
- 延長：2.8km
- 踏切除却：10箇所
- 交差都市計画道路：6本
- 全体事業費：30,300百万円
うち街路事業費：24,217百万円
- 事業期間：昭和53年度～平成5年度



夜景（高槻市駅北側歩道橋）



遠景



整備前



整備前



整備後

事業の効果

事業の完成により、10箇所の踏切が除却されたほか、併せて駅前広場が整備されたことにより、駅周辺の交通流は円滑なものとなった。高架下には新たに18,880m²の空間が生み出され、自転車駐輪場や商業施設等に活用されることとなり、市民の利便性が向上した。また、市民アンケートでも、高槻市駅付近が高架になったことで「街全体の印象が良くなった」とする意見が8割を超えるなど、市民から高い評価を得ることができた。